

令和元年 11 月 28 日

令和 5 年度（第 38 回）国民文化祭の開催地内定について

令和 5 年度（第 38 回）国民文化祭の開催地を、石川県に内定しましたのでお知らせします。

1. 国民文化祭の概要

国民文化祭は、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典であり、各種の文化活動を全国規模で発表、共演、交流する場を提供するとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用し、一層の芸術文化の振興に寄与するものです。

2. 開催県の内定について

国民文化祭の開催地については、開催希望のあった地方公共団体のうちから、文化庁長官が決定することになっています。令和 5 年度開催について石川県から要望があり、今般、内定を行いました。

3. 内定書交付式

日 時：令和元年 11 月 28 日（木）15：10

場 所：文化庁長官室

出席予定者：谷本 正憲（たにもと まさのり）石川県知事

＜担当＞文化庁参事官（芸術文化担当）付
学校芸術教育室

文 化 戦 略 官 根 来 恭子

文化活動振興係長 下平 幸人

電話：03-5253-4111（代表）内線 2832

「第38回国民文化祭・いしかわ2023（仮称）」について

基本的な考え方

- 石川県は、三方を日本海に囲まれた能登と霊峰白山を仰ぐ加賀という、二つの特色ある地域から成り立っており、先人たちは太古の縄文文化の時代から、古代における朝鮮半島や渤海国との交流、中世の一向一揆、近世の加賀百万石の武家文化と、それぞれの時代ごとに、四季折々に美しく豊かな自然風土と深く関わり合いながら、色鮮やかな文化の華を咲かせてきました。
- このように、長い歴史の中で連綿と受け継がれ、発展してきた伝統的な文化に加え、近年では、オーケストラ・アンサンブル金沢をはじめとした新たな文化の創造や金沢城公園の史実に沿った復元整備なども進められており、これらすべてが石川の層の厚い文化を形成しております。
そして、2015年（平成27年）の北陸新幹線金沢開業以来、こうした豊かな文化の魅力が高い評価を受け、国内外から多くの観光客に足を運んでいただき、その効果は、現在も持続しています。
- 2023（令和5）年の春には、新幹線の石川県内全線開業が実現いたします。この「第二の開業」により、外国人を含め、さらなる観光客の増加が見込まれます。このため、同年に国民文化祭を開催することにより、多くの観光客に対し、石川県の魅力を発信するとともに、国内・海外の文化団体との交流を促進し、一層の交流拡大につなげていきたいと考えております。
- 加えて、石川県では2回目となる国民文化祭の開催を通じ、改めて、県民一人ひとりが石川県の文化の価値を再認識することにより、未来に向けて誇りと愛着を持って、文化の継承と発展に取り組んでいく契機にしていきたいと考えております。

開催時期

令和5年 秋（予定）

参 考

国民文化祭の開催実績及び開催県の内定状況

回	年度	開催地	回	年度	開催地	回	年度	開催地
第1回	S61	東京都	第14回	H11	岐阜県	第27回	H24	徳島県(2)
第2回	S62	熊本県	第15回	H12	広島県	第28回	H25	山梨県
第3回	S63	兵庫県	第16回	H13	群馬県	第29回	H26	秋田県
第4回	H1	埼玉県	第17回	H14	鳥取県	第30回	H27	鹿児島県
第5回	H2	愛媛県	第18回	H15	山形県	第31回	H28	愛知県
第6回	H3	千葉県	第19回	H16	福岡県	第32回	H29	奈良県
第7回	H4	石川県	第20回	H17	福井県	第33回	H30	大分県(2)
第8回	H5	岩手県	第21回	H18	山口県	第34回	R1	新潟県
第9回	H6	三重県	第22回	H19	徳島県	第35回	R2	宮崎県
第10回	H7	栃木県	第23回	H20	茨城県	第36回	R3	和歌山県
第11回	H8	富山県	第24回	H21	静岡県	第37回	R4	沖縄県
第12回	H9	香川県	第25回	H22	岡山県	第38回	R5	石川県(2)
第13回	H10	大分県	第26回	H23	京都府			

（今回内定）